



# 営農NEWS



## ダイズ病害虫の防除を徹底しましょう

ダイズの生育中には、種々の病害虫が発生します。特に、莢や子実に被害を生じる病害虫の発生は、ダイズの品質や収量の低下を招いて大きな減収となります。

主な英害虫としてはダイズサヤタマバエ、マメシンクイガ、シロイチモジマダラメイガ、サヤムシガ類などの他、子実を吸汁加害するカメムシ類などがいます。

さらに、茎葉を主に食害し、多発生して暴食すると丸坊主にしてしまう害虫に、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、マメハンミョウなどがいます。

また、子実病害としては紫斑病があります。

これらの病害虫は、主にダイズの開花期から子実肥大期にかけて被害が伸展しますので、この期間における防除の徹底が特に大切になります。8~9月にかけてダイズ圃場の病害虫をよく観察し、適期、適切な防除に努めてください。

### ＜防除のポイント＞

- 1 ダイズの開花は、播種時期や品種によって異なります。仮に6月下旬の播種ですと、平年ではタチナガハやハタユタカで8月上旬頃に、納豆小粒で8月中旬頃に開花します。防除時期の簡易な目安となるのは開花してからの経過日数ですので、圃場のダイズをよく観察し、基準となる開花した日を記録して防除時期の参考とします。
- 2 ダイズ害虫は種類が多く、加害や防除時期が複雑で微妙に異なります。そこで目安として、開花後10~15日頃より約10日~2週間間隔で3~4回の薬剤散布が必要になります。前半はサヤタマバエや莢内子実を食害するシロイチモジマダラメイガ等が中心で、中~後半はカメムシ類や食葉性のハスモンヨトウ、オオタバコガが中心となります。なお、気象条件によってカメムシ類やハスモンヨトウ等が多発生した場合は、適宜、追加防除が必要になります。
- 3 紫斑病の発生は開花期以降から成熟期までに連続した降雨があると発生が多くなりますので、その場合は注意が必要となります。防除は、開花後15~40日間に1~2回の薬剤散布を実施し、その後も降雨が続く場合には追加防除を行ってください。
- 4 ハスモンヨトウやオオタバコガ幼虫は老齢になると薬剤の防除効果が低下するため、圃場をよく観察し、若齢期のうちに防除を行ってください。なお、その際は葉裏や株元にも十分薬液がかかるように散布してください。
- 5 薬剤防除の際は、薬剤の収穫前日数に十分注意し、また、系統の異なる薬剤でローテーション防除をしてください。

第1表 ダイズ主要害虫の主な防除薬剤（平成28年8月1日現在）

薬剤名	希釈倍率または使用量	収穫前日数／使用回数	対 象 害 虫				
			ハスモンヨトウ	シロイチモジマダラメイガ	マメシンクイガ	ダイズサヤタマバエ	カメムシ類
スミチオン乳剤	1,000倍 1,000~1,500倍	21日前まで／4回以内		○	○	○	○
トレボン乳剤	1,000倍	14日前まで／2回以内	○	○	○	○	○
トレボン粉剤DL	4kg/10a	14日前まで／2回以内	○	○	○	○	○
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	7日前まで／2回以内				○	○
プレオフロアブル	1,000~2,000倍	7日前まで／2回以内	○		○		
プレバソフフロアブル5	4,000倍	7日前まで／2回以内	○		○		
アニキ乳剤	2,000~3,000倍	前日まで／3回以内	○				
アタブロン乳剤	2,000~4,000倍	14日前まで／2回以内	○				
クラブフロアブル	2,000倍	7日前まで／2回以内					○
MR. ジョーカー粉剤DL	4kg/10a	7日前まで／2回以内					○

第2表 ダイズ紫斑病の主な防除薬剤（平成28年8月1日現在）

薬剤名	希釈倍率又は使用量	使用時期 / 使用回数
アミスター20フロアブル	2,000~3,000倍	収穫7日前まで／2回以内
ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000~4,000倍	収穫7日前まで／3回以内
ゲッター水和剤	1,000倍	収穫14日前まで／3回以内
マネージDF	3,000倍	収穫30日前まで／2回以内
Zボルドー	500倍	- / -

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040